長洲町立長洲小学校　校長便り　No.８０

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年３月１７日(金)

独り言

来週は卒業式である。時間が経つのは早いものである。先々週、強歩会に参加させて頂き、思い出に浸ろうと少し精神的な時間の速さを緩めていたがそんな訳にもいかない。

１年間を振り返り今感じていることは、支えていただいた皆様への「感謝」の気持ちである。私自身、普段の生活の中で気を付けていることが３点ある。「真摯な心」「謙虚な心」「感謝の心」である。その視点から我が身を振り返ると、反省するところも多い。しかし、反省点から来年度への課題や志向も見えてくる。それを活かし、令和５年度も「攻め」の業務に向かう自分でありたい。

来年度は、本校２年目の年、結果を求められる年だと思う。そういう意味でベクトルを揃えていきたい。

卒業前雑感

「至誠にして動かざる者は、未だ之れ有らざるなり」

「『孟子』離婁上」の中の一説です。吉田松陰もこの言葉を愛したと言われます。意味は「こちらがこの上もない誠の心を尽くしても、感動しなかったという人には未だ会ったためしがない。誠を尽くせば、人は必ず心動かされるということ。」となっています。さて、私達は普段の生活の中で「誠を尽くす」ことはできているでしょうか。６年生はそんな視点で卒業式の練習をしています。卒業式は学校の中で最大の学習発表の場です。我々もその視点で指導しています。当日は、保護者の皆様に感動を届けたいと思います。

卒業式に限らず誠の心を持って物事に取り組むということは大切なことです。そして、「至誠」という視点で生活を送っていれば、必ず自分に対して起こることは「至誠」がベースにあり、人の温かさや真心が感じられ、豊かな生活を送れるでしょう。

私も卒業式で子供達の成長を感じ、保護者の皆様と共に感動を味わいたいです。子供達にはその様な人がいるということを胸に留めて、卒業式に臨んでほしいと思っています。

卒業前雑感　仕事

ＮＨＫの番組「プロフェッショナル仕事の流儀」ご存じの方も多いと思います。私はこの番組をよく見るのですが、この番組シリーズの前は「プロジェクトＸ」でした。多くの職業に触れることで、教師特有の視野の狭さを少しでも広げるきっかけになればと思いつつ、様々な仕事の有り様について知っておくことは大切だと考えるからです。

これまで、警察官、航空管制官、外科医、料理人等々、多くの仕事を見てきました。私なりにその中から何かを学ばなければならないと考えてみました。そこで感じたことは、まず、プロフェッショナルは「仕事が好き」であることです。自分に置き換えて考えてみれば、すごく納得できます。私は教師という仕事が好きです。そういう意味ではプロを名乗れるのかなと思ったりもします。次に、「逆境をバネにし、より良い次段階へ繋いでいく。」ことができるのが、プロフェッショナルだということです。向上心を失ったら、あるいは停滞したらプロフェッショナルとは言えません。私達教師は、いつになっても先生と呼ばれます。そのような中にいて、問題対処能力は低いことが多い。このような点を自覚しておかないと、私達はプロ教師とは言えないと思います。

担任時代、子供達にこんな話をしていました。「君達は小学生、４月からは中学生、さてプロの中学生とは何をなすべきなのか考えてみなさい。自ずと答えは出る。」愚痴ってなんかいられない、私達も子供達も保護者も、皆が前を向いていかなければならないのです。一人一人が持ち場をこなすことで、社会が成り立っていることが見えてくるものです。

シリーズ「自分を語る」#８０

「澤田先生、退職願を書いてください。」「何ですと～～～～!?」

突然の宣告に腰を抜かしそうだった私は、一呼吸おいて校長先生に尋ねました。

「退職願…ですか？　どういうことですか？」

私は咄嗟に、何か　悪さ、したっけ？　あのことかな？　それともあれ？　とか、どうでもいい、考えなくてもいいことを凄いスピードでやたらと考えていました。校長先生は笑いながら話を始めました。

「冗談冗談、仕事を辞めるってことではなくて、手続き上退職願を書く必要があるだけ。」

「手続き？　でも何で…ですか？」

「澤田先生、知事部局に行ってください。」

「チジブキョク？」

「はい、知事部局。平たく言えば、県庁でお仕事をします。」

「県庁で？　学校じゃないですよね？」

「学校現場ばかりでは学べないこともあります。先生には他の現場を見て来てもらいたいのです。１年間、学校を離れて、行政の仕組みを学んできてください。」

「ギョウセイ？　行政ですか？」

「はい、行政です。しかも教育行政ではなく、一般の地方行政です。一旦教育職を解くので退職願を書くわけ。そして、教育委員会の事務局職員となって、そこから知事部局へ出向となるんよ。行先は　国際課　です。」

「コクサイカ－？」

平成１９年度末伊倉小学校からの異動の局面、校長先生から意外な異動先を告げられました。国際課です。その後の会話です…。

「こくさいか－？」

「そう、国際課。どんな業務かについては私も分かりません。近日中に引き継ぎに行って内容を確認してください。」

さて、学校の先生が県庁で働くというこの制度、細かく言うと面倒なので、簡単に説明します。「教諭が教育現場を離れ、行政の仕組みや県民の願いに触れ、教育現場に戻った時に学びを活かす。」という制度です。本当に簡単に書きましたが、私にとっては非常に学びの多い、掛け替えのない時間でした。「退職」なんて言葉で話したのですが、その辺りの仕組みはこうです。先ず教諭を退職し、県教育庁（県教育委員会）の事務職員として採用されます。そして、そこから出向して知事部局職員となります。私はその出向者として「国際課」職員となった訳です。

２度目の退職願を書いて、不安を抱え国際課へ。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）